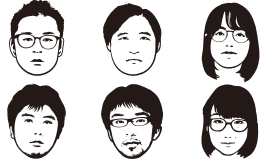


Member.



Fun = 楽しい
自分たちが笑顔で働き、日々新しいことにチャレンジしている社員の姿、イキイキ楽しんでいる広研印刷を知って頂きたく、CI委員会ではブログと、このPR誌、『FUN』を通して情報発信しています。

楽しい企画を創造するには、まず自らが楽しくなければ、お客様を楽しませることもできません。『楽しい』は価値であり、価値を生む原動力でもあります。『楽しい』から生まれる創造にご期待ください。『お客様に安心と満足をお約束し感動をお届けする』

ことを目指します』広研印刷の経営理念です。スポーツ選手でも芸術家でもない私たちがお客様に感動していただけるにはどうしたらいいのか私達は日々考え行動し、新しい感動を創造していきます。
CI委員会

Corporate Identity

FUN

Corporate identity

ISSUE No
08

2024年7月1日、広研印刷のグループ会社であるクリエイティブセンター広研（以下 CCK）は、創業50年を迎え、社名を「株式会社広報技術研究所」に変更し、新たに河野修平が社長に就任しました。これまでグラフィックデザインやコミュニケーションツールの企画・制作で実績を重ねてきたCCKは、今後どのような方向に進化していくのか。河野社長にお伺いしました。

▶社名変更の背景と新たなビジョン

「広報技術研究所」という名前にはどのような想いが込められているのでしょうか？

私たちの親会社である「広研印刷」は、創業者である前川規二が「広報技術研究所」という名称で、1960年に創業しました。当時は印刷だけでなく企画や編集を手掛ける会社を目指していましたが、その後法人化し、印刷を主に業とする、現在の社名「広研印刷株式会社」に変更しました。

今回、私たちはその創業当時の社名「広報技術研究所」と当時の創業者の「想い」を受け継ぎ、今まで培ってきたクリエイティブのチカラをベースに、新たに「リレーション（関係性）」をテーマにした事業に取り組んでいきたいと考えています。

▶「クリエイティブ」と「リレーション」

「リレーション」をテーマにした事業とは、どのようなものなのでしょうか？

私たちはこれまで、単なるデザイン制作にとどまらず、お客様が喜んでいただけるような「コト」をご提案できることも強みでした。それはマーケティングやブランディングに近い、パブリックリレーションズ*的な内容でもありました。今後は、パブリックリレーションズをさらに深掘りし「コトをおこす」「モノをつくる」という互いを補完し合うアプローチの中で、お客様のビジョンやニーズのために何をすべきかを共有し、ゴールを定めた一つのプロジェクトとしてクリエイティブワークを進めていきたいと思っています。

*『パブリックリレーションズ(Public Relations)=組織とその組織を取り巻く人間(個人・集団)との望ましい関係を創り出すための考え方および行動のあり方』



河野社長

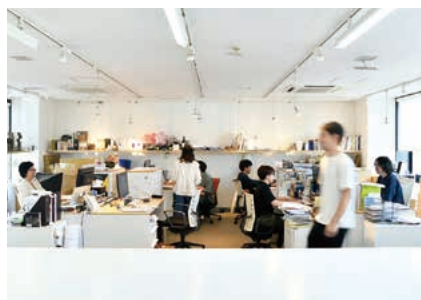


グループ会社クリエイティブセンター広研が「株式会社 広報技術研究所」に生まれ変わりました！



▶会社を社員にとって「タノシイ場所」に社員にとっての「タノシイ場所」づくりとしてどのような取り組みをされていますか？

会社はどうしても、忙しく厳しい状況が多くなりがちですね。その中でどうしたら楽しくなるのか？私が考えたのは「まず自分が楽しむこと」でした。例えば、私の長年の趣味を活かして会社の施設に作ったラジコンサーキット「PANDA CIRCUIT」は、今では、社員やお客様との関係を築く貴重な場所になっています。この「自分が楽しむ」ことは実は会社全体にもプラスの影響を与えることが多いんです。弊社では、社員が自分の「やりたいこと」に価値を感じ、実現のために全面的にフォローしています。



広報技術研究所 新館フロア

▶お客さまと一緒に「タノシイ時間」をお客さまとどのように関わり、長期的な関係を築いていきたいと考えてますか？

私は、企業とお客さまとの関係はただの取引にとどまらず、深い信頼関係があってこそ成り立つものだと思っています。そのため、普段からお客さまとお茶やお酒を飲みながら雑談することが多いです。雑談の中でお客さまの本音を聞いたり、互いに共感することで、より強い信頼関係を築けると感じています。長期的な関係を築くためには、ビジネスの枠を超えて人間としてのつながりが大切だと思っています。ぜひ、私たちに少しでも興味を持っていただけたら、まずは一度お茶をしながらゆっくりお話ししたいですね（笑）。



広報技術研究所 別館フロア

株式会社広報技術研究所の新しい挑戦は、ただのデザイン制作にとどまらず、企業と社会のつながりを深め、みんなで一緒に新しい価値を作り出すことにあるのだと、インタビューを通して感じました！河野社長の言葉からは、社員やお客様とのコミュニケーションや「タノシイ場所」を作ることを大切にされており、広報技術研究所に対する熱い想いが伝わってきました。今回はインタビューなのでできませんが、次回広報技術研究所にお邪魔して、ぜひお茶会をしてみたいです。以上、河野社長へのインタビューでした。今後のさらなるご活躍を、グループ会社として応援しております！



ラジコンサーキット「PANDA CIRCUIT」



モルック交流会！

以前 BABABASE に広友物産様がご来社いただいたことをきっかけに、モルック交流会が始まりました。その後も広友物産様の本社にお招きいただき第二回モルック交流会を開催したりと、モルックを通じて定期的な交流をさせて頂いております。ありがとうございます。

そして今回の第三回モルック交流会では、モルック仲間の広友物産様に加えて伊藤忠ファッションシステム様にもお声がけし、初参戦していただきました！

今回のさらに賑やかになった交流会の様子をお届けします。

伊藤忠ファッションシステム様は、モルックの認知向上や魅力発信のために、モルック発祥の国フィンランドにあるTactic Games社とモルックのアパレルや服飾雑貨カテゴリに関するマスターライセンス契約を締結し、日本国内での商品ライセンス事業を推進されています。

そして広友物産様は、モルック部の創部に向けてビジネス用とは別にモルック用の名刺を作成したそうです！今回はモルック部として、キャプテンとPRマネージャーに参戦していただきました。

実は、両社とも今年の8月に北海道で開催されたモルック世界大会にも参加されたそうで、企業同士の交流がさらに深まる機会にもなったら嬉しいです。

今回のモルックは普段のルールとは違って、アプリを使った「後ろ向きで投げる！」や「片足で投げる！」など、条件付きプレイをしてみました。

とても盛り上がり、みんなで楽しむことができました。こうしたユニークなプレイがモルックの魅力を一層引き立ててくれたんじゃないかなと思いました！

今後もモルックを通じて、企業同士の交流がもっともっと広がっていくといいなと思っています。楽しすぎて集合写真



を撮る事をすっかり忘れてしまったので、次回は忘れずに撮らなきゃですね…(笑)引き続き、モルックの輪を広げていけるように頑張りますので、これからもよろしくお祈りします！ご興味のある方は、ぜひ一度一緒にやりましょう！



第一回 初めてのモルック交流会の様子



第二回 交友物産様の本社でモルック交流会の様子



今回のモルック交流会の様子

過去に行ったモルックの様子もぜひ読んでみてください！

第一回
モルック交流会!!
2024/6/7

第二回
モルック交流会!!
2024/10/9

社内で
モルック大会
を開催しました!

異なる視点が紡ぐ、クリエイティブとサステナブル



先日 BABABASE にて「やってみようえほん展」の資材提供にご協力いただいているタキヒヨー株式会社様、早稲田大学繊維研究会様、Dress the Life 様(株式会社測上ファインズ様)と当社の4社で、「異なる視点が紡ぐ、クリエイティブとサステナブル」をテーマにしたトークセッションと展示会を開催しました！

トークセッションでは、それぞれの立場や視点からサステナブルなものづくりについて語り合いました。実は、私自身がトークセッションに参加するのは初めての経験だったので登壇前は少し緊張していましたが、参加者の皆さんと意見を交わす中で、視点の違いや新たな発見に刺激を受け、貴重な時間を過ごすことができました。

展示会では、早稲田大学繊維研究会様が制作した個性豊かな作品が並びました。作品はどれもタキヒヨー様が提供するサステナブル素材や Dress the Life 様が提供する残布を使用していて、とても魅力的でした。サステナブルな素材がどんな形でクリエイティブに活かされるの

か、非常に興味深かったです。

今後も BABABASE を通して、こうした「共創」の場をさらに広げていけるよう、多くの企業様や学生団体様との出会いを大切にしていきたいと思っています。今回のイベントをきっかけに、新しいアイデアや連携が生まれることをとても楽しみにしています！



トークセッションや展示会の様子はアーカイブ配信中!



6月12日に池袋第三小学校のみなさんが、弊社早稲田工場の見学に来てくれました！私も仕事を抜け出して少しお邪魔してきたので、当日の様子をご紹介します。



まずは刷版室に行き、オフセット印刷のしくみを説明します。「緑色は何と何の絵の具からつくりますか?」「黄色と青!」「そう!黄色(Y版)と青(C版)を重ねると緑色になりま〜す」と楽しげなやりとり。印刷物にデジタル顕微鏡を当てながら、ハンコ(刷版)を重ねて色を表現していること、色の濃淡はつぶつぶ(網点)の大小で決まることなどを解説していました。続いて、印刷機を間近に見ながらの説明です。機械は実際に動いておりパタンパタンと大きな音が響いていましたが、みなさん一生懸命に耳を傾け、気づいたことなどを記録していました。インキローラーの中を覗き込んで、初めて見る印刷機専用のねっとりしたインキに、「スライムみたい!」と驚いた



ようでした。引率の先生方も子どもたちを見守りながら、一緒に聞いてくださっていました。

印刷に使う用紙はクラフト紙で梱包されています。そこには「250枚_110Kg」と記載されたラベルが貼られていて、働いているスタッフが手を止めて子どもたちに説明をする場面もありました。紙の「重さ」を意識することは普段あまりないと思います。算数の授業のように、頭を働かせながら聞いている様子でした。



工場見学、お気軽にお越しください!

今回は小学生のみなさんにお越しいただきましたが、もちろん大人の見学も大歓迎です!印刷会社は工場を郊外に置いていることも多いため、都心では珍しく制作と製造をセットでコンパクトに見学できる印刷会社です。DTP制作から印刷まで一連の流れを目で見ることができ、印刷物制作に携わる方の学習・研修にもよくお使いいただいています。ぜひぜひ一度お越しください!

弊社工場に小学生のみなさんが見学にきてくれました!

